

# 保健体育科学習指導案

指導教官  
実習者氏名

1、日 時 2023年6月14日 水曜日 6校時

2、場 所 体育館

3、学年・組 3年6、7、11、18

4、単元名 バスケットボール

## 5、単元目標

### (1) 知識及び技能

安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる

### (2) 思考力、判断力、表現力

攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる

### (3) 態度（学びに向かう力など）

球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる

## 6、指導観

### (1) 教材について

バスケットボールは、球技の中でもゴール型にあたる。ゴール型とは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートやトライなどをして、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。ゴール型の学習においては、ゴール型に共通する動きを身に付けることが大切である。入学年次では、安定したボール操作と空間を作りだすなどの連携した動きによってゴール前への侵入などから攻防を展開できるようにする。ゴール前への侵入などから攻防をするとは、仲間と連携してゴール前の空間を使ったり、ゴール前の空間を作りだしたりして攻防を展開するといったゲームの様相を示したものである。指導に際しては、仲間と連携した動きによってゴール前に空間を作りだしてゴール前へと侵入する攻防を中心に自己のチームや相手チームの特徴を踏まえた作戦を立てて、得失点の攻防を重視した練習やゲームを展開し、ボール操作とボールを持たないときの動きに着目させ、学習に取り組ませることが大切である。安定したボール操作とは、ゴールの枠内にコントロールしてシュートを打ったり、味方が操作しやすいパスを送ったり、相手から奪われず次のプレイがしやすいようにボールをキープしたりすることである。空間を作りだすなどの動きとは、攻撃の際は、味方から離れる動きや人のいない場所へ移動する動きを示している。また、守備の際は、相手の動きに対して、相手をマークして守る動きと所定の空間をカバーして守る動きのことである。

(2) 生徒観

このグループは、空間にパスを出した攻撃や、守備がいる中でパスで崩したり、数的有利を作りながら攻撃する、積極的にプレスをかけた守備をするゲーム展開をするための技術レベルは足りていない。しかし、パス、ドリブルなどの基礎的な技術はある。集合の呼びかけに素早く反応すること、話を聞く姿勢、練習に取り組む姿勢などは優秀で積極的な生徒が多い。理解力も優れており、指示を守り練習に取り組んでいる。また数名ほど興味・関心の薄い生徒もおり、積極的に授業に取り組んでいない。

(3) 指導観

空間にパスを出した攻撃や、守備がいる中でパスで崩したり、数的有利を作り出して攻撃ができるといったゲーム展開にしたい。そのため、パス、ドリブル、シュートなどの基礎的な技術の応用を身に付けさせたい。パスをする人が空間にパスを出し、そのボールを味方が走り込んで受け取りレイアップシュートをするといった組織的な攻撃の練習を取り入れる。ディフェンスがいる中でパスで崩すかドリブルで崩すかを考えられるような攻撃練習を取り入れることで、どこにパスを出せばフリーでボールがもらえるのか、どうすればディフェンスを抜けるのかといった課題を発見させ改善方法を考えられる授業展開にしていきたい。

7、指導計画 全8時間中5時間目

時間	1	2	3	4	5	6	7	8
0分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○準備運動</li> <li>○挨拶、健康観察、本時の目標確認</li> </ul>							
	○ドリブル ○チェストパス・ワンハンドパス・ワンバウンドパス	○四人組パス・レイアップシュート	○ドリブルパス・ゴール下シュート・空間レイアップ	○空間レイアップ裏抜け	○ディフェンス付きレイアップ・三対三	○五対五のポゼッション・四対四		○テストのシュート練習・発展練習・ゲーム
45分	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康観察</li> <li>○本時の評価</li> <li>○次回の予告</li> </ul>							

8、本時の目標

(1) 知識及び技能

- ・パス、シュートを正確に行うことができる
- ・空間にパスを出すことができる
- ・ディフェンスがいる中でパス、ドリブル、数的有利を使って崩してシュートを打てる

(2) 思考力、判断力、表現力

- ・攻撃をする上で、パス、シュートを正確に行うことで勝利につながるとわかる
- ・空間にパスを出すことでディフェンスを崩せることがわかり、攻撃にうまく活用できる
- ・積極的にプレスをかけた守備をすることで、相手の得点が防げるとわかる

(3) 態度（学びに向かう力など）

- ・積極的にアドバイスしあったり、技術を習得しようとすることができる

9、本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価
導 入 5 分	<p>○準備運動、整列、挨拶、健康確認</p> <p>○爪、髪の確認</p> <p>○本時の目標確認 レイアップシュートを復習し、さらに発展したディフェンスのついた中でのレイアップシュートを行い3対3という実戦形式に落とし込めたか</p>	<p>怪我人や体調不良者がいないか確認する</p> <p>爪や髪が伸びていると周囲の人を怪我させてしまうリスクがあると伝え、切ったりくくるよう指示を出す</p>	

説明(3分)

○レイアップシュート(1分)  
ドリブルせずに持ってレイアップシュートをして良い(出来る人はドリブルをする)

○空間パスレイアップシュート(1分)

・シュートをする人はパスを出す人にボールを出し、パスを出す人はそのボールを受け取りワンバウンドでシュートを打つ人にパスを出しレイアップシュートをする  
・シュートし終わったらパスを出す人がボールを拾いに行き列の最後尾に並ぶ、シュートを打った人はパスを出す

説明 3分

○空間パスレイアップシュートディフェンス付き(5分)



空間パスレイアップシュートの練習でパスを出していた人がボールをパスした後ディフェンスになるその際ボールは捕らずプレッシャーをかけるだけにする

レイアップシュートの復習をし、次にワンバウンドパスからのレイアップシュートに入る

前回から行っている右左のリズムとバックボードのどこに当てれば入りやすいのかの2つのポイントを意識してもらう

ワンバウンドを叩きつけるように投げる生徒がいれば相手の動きに合わせてチェストパスでワンバウンドさせるよう指示する

最初にパスを出す位置とパスを出す人の位置にマーカーを置いておく

ディフェンスをかわしてレイアップシュートを打つように指示をする

A 右左のリズムで正確にシュートが打てている

B 右左のリズムでシュートが打てている

C 右左のリズムでシュートが打てていない

展  
開  
30  
分

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">まとめ5分</p>	<p>説明・実演(5分)</p> <p>○3対3(10分) コート上の3ポイントラインを使って行う</p> <p>ディフェンスがついたレイアップシュートを使って実践形式で行う</p> <p>ルール</p> <p>① ゴールを決めたら攻守交代 ② ボールを取られたら攻守交代 →ボールを取られたら攻撃と守備の体制を変えて再スタート ③ ボールがコートの外に出たら攻守交代</p> <p>集合・健康観察・まとめ 次回予告・挨拶</p>	<p>クラスで8チーム作る</p> <p>各ゴールの3ポイントラインを使用する</p> <p>4分間(2分、2分)の前後半でゲームを行う 前半終了後4人チームはメンバー交代をして後半に臨む</p> <p>勝ちチームは時計回りに1つ移動し、対戦相手を変える</p> <p>前後半の間の休憩は20秒間で行う</p> <p>ゲーム終了後、勝ちチームの移動は30秒間で行う</p> <p>怪我をした人や体調が悪くなった人がいないかを確認する</p> <p>本時の評価をする ディフェンスがついたレイアップシュートを3対3の実戦に落とし込めたか</p> <p>次回は4対4を行ったりポゼッションを行ったり、実践を増やしこれまでの技術を実践の中で使えるようにする</p>	<p>Aディフェンスがいる中でのレイアップシュートの技術を正確に使って3対3に活かせている</p> <p>Bディフェンスがいる中でのレイアップシュートの技術が使えている</p> <p>Cディフェンスがいる中でのレイアップシュートの技術が使えていない</p>
--	---	---	--